高等学校で『学び合い』を導入するに至った教師の変容に関する事例的研究

○福田　　健（上越教育大学教職大学院）
○谷野　善彦（上越教育大学教職大学院）
西川　　純（上越教育大学教職大学院）
（j275647a@myjuen.jp）

要約

本研究の目的は，アクティブ・ラーニングの形態の一つである『学び合い』の考え方による授業を実践したことのない高等学校の教師が，授業に導入し実践する過程においての変容を明らかにすることである。その結果，『学び合い』授業での生徒達の会話や行動や学び方の変容から『学び合い』授業の有効性を実感していることが明らかとなった。また，授業参観や実践を重ねることで，（1）参観前に抱いていた疑問を解消してきていること，（2）授業開始時と授業終了時の教師の語りの重要性に気づいたこと，（3）『学び合い』授業を継続・発展させるための疑問を新たに抱いていること，以上３点の変容が明らかとなった。

キーワード：アクティブ・ラーニング，『学び合い』，教師の変容，高等学校

Ⅰ　問題の所在

高大接続システム改革会議が公表した最終報告(2016)では，「学力の三要素」に対応する資質・能力を育むため「課題の発見・解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶ，いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図ることが必要である。」と述べている[1]。

生徒が主体的・協働的に学ぶ授業において，片桐(2005)は，高等学校において学習者同士の自由な交流によって行う作文学習では，読み手からアドバイスをもらうことにより書き手の意図を読み手により伝わる文章を作ることができる[2]と述べている。

西川(2015)は，アクティブ・ラーニングの手法の１つとして『学び合い』による授業を提案している[3]。西川(2010)が提唱する『学び合い』とは，授業において，主体的・協働的に学ぶ学習集団づくりを目指す学習デザインの１つであり，学習者の相互関係を重視した学習である[4]。

岡田ら(2014)は，高等学校地理の『学び合い』において，学習者は地理用語などの言葉の躓きを学習者同士の相互作用によって問題解決が行われている[5]と述べている。

『学び合い』を実践する教師において，小林ら(2007)は，『学び合い』を実践した教師の役割を分析し，その段階ごとの変遷を明らかにした。小林らは，子ども同士のかかわりの中で学習に取り組む姿勢が変わり，それと共に周囲の子ども達も変わっていく事例等から，『学び合い』授業の有効性を実感していることを明らかにしている[6]。

谷内ら(2009)は，『学び合い』を導入した教師の導入時からの変容を分析し，児童の有能さを実感した教師が，教師の役割を指導者から支援者と捉えるようになることを明らかにしている。また，『学び合い』が活性化するために，「個」から「集団」を意識した発話へと変容する[7]と述べている。

以上の様に『学び合い』をはじめ学習者同士の自由な交流による学習について，さまざまな有効性が明らかにされている。しかし，高等学校を研究のベースとした『学び合い』の実践研究は少なく，もちろん『学び合い』における教師の変容についての研究はなされていない。

Ⅱ　研究目的

本研究では，『学び合い』授業を初めて参観し，その後授業に導入するに至った高等学校の教師について観察・分析し，意識面の変容を明らかにすることを目的とする。

Ⅲ　研究方法

1　調査対象

N県立A高等学校1年(20名)

数学担任：N教諭(教職歴28年)，I教諭（教職17年)

※『学び合い』授業を見たことがない。

2　調査実施期間

平成28年9月～12月

3　活動手続き

(1)調査対象の教師が教科担任をする学級で『学び合い』授業を『学び合い』実践者が行い，調査対象教諭が授業を参観する。(全13時間)

(2)授業中の気付きを教師間で共有する。

(3)授業後にリフレクションを行う。

4　調査方法

(1) 1年生の数学Aの授業において，2名以上で参与観察を通して子ども同士の関わりを記録する。生徒と担任教諭，授業者にボイスレコーダーを装着し，発話を記録する。

(2) 担任教諭，授業者にボイスレコーダーを装着し，発話を記録する。

(3) 授業後の授業の振り返りにおいて，担任教諭と会話する際にボイスレコーダーを装着し，発話を記録する。

5　分析方法

(1) 担任教諭に半構造化面接で以下の項目の質問を行い，分析を行う。

表1　質問項目

1	『学び合い』授業を見る前は，『学び合い』のことをどう思っていましたか。
2	『学び合い』を初めて見た時は，どんなことを思いましたか。
3	『学び合い』の授業を受けた子どものどんな変化を感じましたか。
4	『学び合い』をやろうと決意したきっかけを教えて下さい。
5	『学び合い』をやろうと決意した前と後では自身にどんな変化がありましたか。

(2)授業前，授業中，授業後の教諭の発話を，時系列に従って次のカテゴリーに分類し質的に分析する。

①『学び合い』授業参観前

②『学び合い』授業初見時

③中期（①，②，④に属さない)

④現在

Ⅳ　結果と考察

『学び合い』による授業を継続的に参観した高等学校の教師は，授業での生徒の会話や行動の変容から『学び合い』による授業の有効性を実感していることが明らかとなった。また，『学び合い』授業の参観と実践を通して，授業開始時と授業終了時の教師の語りの重要性に気づき，『学び合い』を継続・発展するための新たな疑問を抱いていることが明らかとなった。

※詳細については，当日発表する。

引用・参考文献

1) 高大接続システム改革会議:「最終報告」, 2016.

2) 片桐史裕, 西川純:「高校生における作文共同編集と伝達の研究」, 臨床教科教育学会誌, 4(1), 74-78, 2005.

3) 西川純：「すぐわかる！できる！アクティブ・ラーニング」, 16-31, 学陽書房, 2015.

4) 西川純:「『学び合い』スタートブック」, 42-61, 学陽書房, 2010.

5) 岡田哲典, 関谷明典, 西川純:「高等学校地理での“言葉”の問題に関する事例的研究」, 臨床教科教育学会誌, 14(1), 11-18, 2014.

6) 小林千鶴, 西川純:「子ども同士の『学び合い』を促す教師に関する研究」, 臨床教科教育学会誌, 7(1), 17-54, 2007.

7) 谷内香織, 西川純：「『学び合い』授業における教師の変容に関する研究 - 『学び合い』導入からの長期観察を通して - 」, 臨床教科教育学会誌, 9(1), 85-96, 2009.